

MC's Pick Up

旬の話題・気になるニュースを毎月お届け! モデル・カーズ・ピックアップ



連綿と受け継がれる 幼稚園バスの系譜

photo:Yoshihiro-HATTOR(服部佳洋)

皆さんは幼稚園バスで通園した経験をお持ちだろうか。私事で恐縮だが、筆者の幼稚園時代は毎日自宅の近くまでお迎えにやってくる幼稚園バスに乗って通園していた。幼稚園児にとって幼稚園バスとは、自宅と社会をつなぐ特別な乗り物。特に自家用車が今程普及していなかった時代、クルマ好きの小さな男の子にとっては、幼稚園バスこそがもっとも身近でリアルな自動車だったのである。こんな事を白状すると年がばれるが、筆者の通っていた幼稚園で使われていたのはプリンス・ライトコーチ。当時の国産車の中で一番のお気に入りだったプリンス・グロリアに似たフロント・マスクが格好よく、他の幼稚園のマイクロバスとすれ違わうたびに、なんだか誇らしい気持ちになったものだ。

そんな事を思い出させてくれたのが、お馴染みのダイヤペットの新作、三菱ふそう ローザ ようちえんバス。

1960年に初代がデビューして以来、我が国を代表するマイクロバスとして知られるローザ。現在は4代目となる同車だが、そのラインナッ

プの中に用意されている幼児車(=幼稚園バス)を再現したのが、このミニカーである。カタログ・カラーのひとつである黄色に動物のイラストをあしらったグラフィックが、如何にも街で見かける幼稚園バスのイメージを醸し出している。幼児の体型に合わせた高さのステップや小振りなシート、保護者の横向きシートなど、幼児車ならではの室内の特徴も再現されている。

ともあれ、国産マイクロバスのミニカーと言うだけで貴重なモデル、しかもこのサイズの幼稚園バスとなると、このダイヤペットの三菱ふそうローザが唯一の存在といえる。あくまでもトイであることにこだわり続けた、ダイヤペットならではの車種選定。自分の幼稚園時代を思い出しながら、希少な園児車のモデルに触れるのもまたひとつのミニカー趣味といえるだろう。



株式会社アガツマ <http://www.agatuma.co.jp>

ちなみにこのダイヤペットの三菱ふそうローザようちえんバスは、42人乗り(大人3人+幼児39人)のショートボディ車をモデル化している。通常のショートボディ車の定員が29名であることを考えると、幼稚園児のミニチュアぶりも想像出来、なにやら微笑ましい。モデルのスケールは1/55で品番はDK-4109、定価は¥1,890(税込)となっている。この他、同じ三菱ローザのバリエーション・モデルでDK-4103「アンパンマン幼稚園バス」もラインナップされており、そちらはボディのグラフィックがアンパンマンのキャラクターがあらわれたものとなり、さらにアンパンマンの指人形も付属する。



■ダイヤペットの歴代幼稚園バス



1965年のブランド誕生以来、我が国を代表するミニカー・ブランドとして長い歴史を誇るダイヤペットに、初めて幼稚園バスが登場したのは1973年の事。製品名も「幼稚園バス」とズバリそのまま、品番はB-4であった。その後、

幾種類もの「幼稚園バス」がリリースされて来たダイヤペットだが、ここでは1980年代以降のカタログから歴代の幼稚園バスをご覧いただく。高速バスから路線バスまで、ベースとなった車種を当ててみるのも楽しい。